

2023 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 竹村 宗一郎

〈 研修概要 〉

今回の研修は2月25日から3月7日までの12日間に渡って行われ、最初の7日間はホーチミン市、その後はフエ市で過ごしました。ホーチミンではチョーライ病院とタンアン一般病院で研修を受け、フエではフエ医科薬科大学で学生と交流し、附属病院で研修を受けました。

〈 研修参加の目的 〉

今回の研修は、人間的に成長するために参加しました。私にとっての人間の成長とは、日常と異なる環境に身を置いて、新しい自分を見つけることです。慣れ親しんだ環境は居心地が良いですが、自身の成長は容易ではありません。したがって、自身の対人関係・場所・環境を大きく変える必要があると思います。しかし、本学は単科大学であることや立地的にも他大学とのつながりが薄く、対人関係・場所・環境を変化させることは容易ではありませんでした。本研修はベトナムの医療現場での研修や現地学生との交流など、人間的成長を促す大きな環境変化が提供されると期待し、参加をいたしました。今回の研修では、新しい環境に身を置き、対人関係・場所・環境に大きな変化を与え、人格に変化をもたらし、さらなる人間的成長をすることを目指し、自分の性格に囚われず、積極的な行動と、多くの友人を作り、毎日必ず何かを学び、新しい価値観を知ること为目标としました。



▲ 集合写真

〈 研修で学んだこと 〉

本研修での学びは「病院研修での学び」、「国際交流での学び」、「内面的な人間としての学び」に分けられます。下記にそれぞれについて報告します。

病院研修での学び

日本とは異なり、ベトナムでは患者と技師の意思疎通が十分にできていると感じました。日本で私が実習を受けた病院では、患者と技師が会話する機会が限られ、患者が技師に質問し辛い雰囲気があります。しかしベトナムでは、患者は気軽に質問し、技師は親しみやすく返答していました。私が知っている日本の診療放射線技師と患者の関係

性と比べ、はるかにコミュニケーションがとれており、良好な関係が築けていると感じました。技師が医師からの検査指示を鵜呑みにし、患者が技師の指示を疑わない場合、患者や撮像部位の間違いが発生することがあります。私が診療放射線技師として診療業務に当たる際は、検査指示が患者に対して適切か検討し間違いを防ぐだけでなく、積極的なコミュニケーションによって患者の不安を取り除きたいと思いました。

さらに、「自身の幸福が患者の幸福に繋がる」こともチョーライ病院の診療放射線技師の方に教えて頂きました。これは、患者の幸福に寄与するには医療従事者自身が幸福であることが求められる考え方です。私は、日本人は仕事に熱心であり、患者の幸福のために自己犠牲の精神で働いている医療従事者も少なくないと思っています。しかし、仕事に熱心なあまり体調を崩し、働く気力がなくなってしまうと、患者を幸福にする目的も達成できません。実際に私自身も「患者の幸福への献身」が診療放射線技師の使命と考えていたため、この考え方は私の新たな価値観になりました。将来病院で働くときには患者も自分も幸せにできる診療放射線技師になりたいと思いました。また、造影剤の注射のトレーニングや、一般撮影の、患者登録、撮影条件の設定、ポジショニング、画像処理の一連の業務を経験しました。日本と異なり、一日の検査数が多く、患者の回転率をあげるためにポジショニングが一部省略されていました。しかし、胸部撮影では肩甲骨が肺野から外れていること等を確認し、検査の質が低下しないことを心がけていると教えて頂きました。日本と手順が違う部分もあると思いますが、検査の質を維持するために教えて頂いたチェックポイントを意識して4年次の臨床実習に臨みたいと思います。

国際交流での学び

ベトナムでは、英語でしか現地の方とはコミュニケーションが取れない状況下であるにもかかわらず、初めは自分の英語力に自信がなく、話しかけることに躊躇していました。しかし、有意義な研修にするために勇気をもって話しかけ続けた結果、コミュニケーションにおける挨拶と自己紹介の重要性に気づきました。名刺を使い自己紹介すると正しい名前のスペルと顔写真が載っている為か、相手に喜んでもらえ、会話のきっかけになりました。また、質問するときは、必ずしも正しい文法で文章にして話す必要はなく、自分が分かる範囲で可能な限り端的に、はっきりと英語を発音することが重要だと学びました。さらに、会話中に聞き取れなかったときや理解できないときは曖昧にせず、必ず聞き返して理解することが大切だと感じました。診療放射線技師として英語が必要な状況でこの学びを活かしたいです。



▲臨床実習 1



▲臨床実習 2



▲ジェスチャーゲーム

内面的な人間としての学び

この 12 日間で何度かソーラン節を披露する機会があり、フエ医科薬科大学では 200 人以上の聴衆の前で踊りました。出国前に先輩方からフエ医科薬科大学の生徒が様々な出し物で歓迎してくれると伺っていたため、感謝の気持ちを伝えたい思いから、私たちにも何かできることがないかと考え、ソーラン節を踊ることになりました。フエの生徒が喜んでくれるような踊りにしようと思い、出国三週間前から練習していましたが、大勢を前にすると緊張と恥ずかしさがありました。しかし、それらを振り切って全力で挑むことでソーラン節は成功しました。その時の歓声と拍手は忘れられません。全力で物事に取り組めば人の心を動かせることを学びました。日本の文化と医療・本学紹介に関するプレゼンテーションでは、チョーライ病院の診療放射線技師の方とたくさん会話したおかげで、英語に対する不安が払拭され、自信を持って発表できました。フエ医科薬科大学での学生とのディスカッションや附属病院での研修時に、英語が分からなくても何事にも率先して挑戦を繰り返す橋戸君から、失敗を恐れずに挑戦を続ける重要性に気がつくことができました。彼の研修での姿勢を見習い、フエの学生に積極的に話しかけ、病院実習では率先してポジショニングするなど、多くのことに挑戦できました。その結果、たくさんのベトナムの友人ができ、積極的に研修を受けられました。本研修で得た様々な学びを、今後の病院実習や診療放射線技師人生に活かしたいです。

〈まとめ〉

研修に対して事前に設定した目標はすべて達成できました。まず、ベトナムでの病院研修や海外交流によって自身を取り巻く環境が大きく変化したため、「人間として成長する」目的は達成されたと考えます。日本に帰国後も SNS を通じてフエ医科薬科大学の友人と英語で連絡を取っており、ベトナムでの対人関係は消えずに残っています。ベトナムの方の考え方や文化は日本と全く異なり、見るもの聞くこと全てが刺激となりました。その刺激によって、就職活動や国家試験対策勉強に対する意欲を掻き立ててくれました。本研修に参加できて本当に嬉しく思います。また、ベトナムの方との交流を通して「新たな価値観を知る」ことができました。日本ではあまり騒がない方ですが、ベトナムの方とは懇親会で仲良く盛り上がったために「日本での自分の性格に囚われない事」も達成できたと思います。さらに、実習中は自分から積極的に質問できたために「積極的な行動」も十分に達成できました。本研修を通し、フエ医科薬科大学の学生のみならず、チョーライ病院の診療放射線技師の方とも友達になれ、「友達を沢山作る事」も達成できました。チョーライ病院での研修では、毎日必ず 3 つ以上の質問をすることで病院や診察業務について学びました。また、フエ医科薬科大学の学生との交流から日本とベトナムの文化や思考の違いについて学べたため、「毎日必ず何かを学ぶこと」も達成できました。



▲ソーラン節



▲ディスカッション



▲パーティの様子

これらを達成したことで、新たな世界を知り、知らなかった自分にも出会えました。本研修で学んだことを今後の人生の様々な場面で活かしていきたいと考えています。

〈 謝辞 〉

チョーライ病院とフエ医科薬科大学の皆様には多大なご指導ご鞭撻を賜りました。ここに深謝の意を表します。また、研修に同行して下さった玉木長良学長の温かな見守りや貴重なアドバイスに感謝いたします。そして、引率して下さった松尾悟教授、水田正芳教授、霜村康平講師、石田翔太助教には丁寧な指導と適切な助言を頂きました。深く感謝致します。